



特集

# 平成30年度 園芸事業推進対策について

園芸部

本県の園芸生産は、生産者の高齢化などにより減少傾向が続いています。その一方で、大規模生産者の作付拡大や後継者等の新規就農、営農組織での園芸品目の導入など、積極的な取り組みも増えている現状にあります。さらに、米政策の見直しに伴い園芸事業への期待が高まっていることから、園芸部では、各種対策を講じながら生産者の生産拡大と所得拡大に取り組んでいきます。



ベルク収穫体験(平成29年)

本年度は、園芸主産地として生産基盤の拡大をはかります。とりわけ、重点市場・重点販売先から求められる園芸品目を生産振興し、「オールいわて」での販売対策を強化します。実施具体策として、反収向上対策、園芸品目導入提案、加工・業務用野菜生産対策、秋冬品目導入対策とともに新たにJAにおける最重要推進対策を設定し、大型園芸生産者を核とした地域複合的な生産拡大をすすめます。そのため、本会では、園芸産地確立事業および買取販売による安定販売を実現し、取り組む生産者を支援します。また、岩手県が実施する「いわて型野菜トップモデル産地創成事業」を積極的に活用し、産地作りに取り組みます。

**〔平成30年度基本方針〕**  
 ■生産基盤の維持・拡大とマーケットインによる生産振興  
 ■「オールいわて」での販売強化



「ゲンノシヨウコ」

(フウロソウ科)

季節のエッセー  
 いわての野草

文・澤口 たまみ  
 絵・永澤 美貴子

漢方薬として名高い。何しろ、お腹の調子が悪いときにこれを飲めば、「たちどころに治る」というのだから、スゴイ。したがって「現の証拠」。

道ばたなどでよく見かける草なので、それほど効くのならばぜひ試してみたいと思っているのだが、私はいたって丈夫で、なかなか機会に恵まれない。

別名のミコシグサとは、はじけた実の形がみこしの屋根に似ているところからついた。ちよと屋根の軒先にあたる部分に、一つずつ種子がついていて、遠くにはじき飛ばされる。東北地方に生えるゲンノシヨウコは、ほとんどが白い花を咲かせるが、西日本では赤紫色をしたものが多いという。うっかりすると別の種類だと思っほど、印象が違う。

参考資料：澤口たまみ著「岩手の野草百科」(岩手日報社 平成18年4月20日 第7版発行)より

純情産地発 **KLARA** vol.828 07  
 クララー 2018

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

純情産地いわて  
**30th**  
 みんなでいわての未来を育もう。

contents

|                          |    |                |    |
|--------------------------|----|----------------|----|
| 季節のエッセー いわての野草           | 02 | 消費地だより         | 07 |
| 特集<br>平成30年度園芸事業推進対策について | 03 | 銀河食堂info       | 07 |
| 純情産地いわて30周年記念企画          | 06 | みんなの分教場        | 08 |
|                          |    | 2018いわて純情むすめ決定 | 09 |
|                          |    | ニュースワイドアングル    | 10 |

# 特集 — 岩手県における乳質改善の取り組みについて

## 1. 生産基盤拡大対策

- (1) 反収向上対策
  - ア. 園芸産地改革ネットワークにより、県およびJA 営農指導員と連携し、反収向上のための技術の実証や普及を実施
- (2) 営農組織（集落営農・営農法人等）への積極的な生産・販売提案と園芸品目導入提案
  - ア. 買取販売を実施
- (3) 加工業務用野菜の生産拡大
  - ア. 野菜需要の6割を占める加工業務用向けの生産拡大
  - イ. 重点品目 寒玉キャベツ・レタス・タマネギ
  - ウ. 機械化体系の導入（たまねぎ）のため、農機レンタルの実施
- (4) 秋冬品目の生産拡大
  - エ. 買取販売を実施
  - ア. 稲作および園芸生産者の周年生産出荷による経営安定



加工キャベツの収穫

## (5) JA別最重点推進対策

- ア. JA別に最重点品目を出荷するための必達面積設定
- イ. 買取販売等を実施
- (6) いわて型野菜トップモデル産地創造事業「の活用」
- ア. 土地利用型野菜
- 経営および施設野菜団地を県と連携し推進
- (7) 全県重点品目の生産拡大
  - ア. 全県重点品目：きゅうり、トマト、ミニトマト、ピーマン、なす、キャベツ、ねぎ、ほうれんそう、レタス、アスパラガス、しいたけ、りんご、りんどう、小菊（以上14品目）
  - (8) 労力確保対策
- 各JAでの取り組み事例の共有化と、中央会担い手サポートセンターとの連携による労力支援体制の確立



しいたけ試食会（平成29年）

## 2. 販売強化対策

- (1) 重点市場・販売先への安定供給実現に向け、JA間・集荷場間の連携による「オールいわて」としての責任供給体制強化
- (2) 直接販売（予約相対取引、直接契約取引）の拡大
  - ア. 重点量販店への販売強化
  - イ. 加工・業務事業者への販売推進
- (3) 重点市場・重点販売先におけるフェア、産地交流会等の販売促進対策の拡大
- (4) 生産技術のレベルアップ、品質クレームへの迅速対応、

## 2. 具体的支援内容

- (1) 対策メニュー
  - 「園芸産地確立事業 総合生産対策事業」に「JA別最重点推進品目拡大支援」を追加しました。
  - (2) 「JA別最重点推進品目拡大支援」は、次の考え方を基本としました。
    - ア. 各JAの地域実態を踏まえ「最重点対策」を設定し、より効果的な支援内容とする。

| 実行具体策   | 行動計画                          |                               |
|---|-------------------------------|-------------------------------|
|   | 30年計画                         | 29年実績                         |
| 1. 園芸品目買取販売の拡大<br>(1) 実需者ニーズに基づく売れる野菜づくりの拡大<br>(2) 新規生産者などの経営の安定化<br>(3) 取引先の拡大と営業強化  | 880百万円<br>(野菜・果実・花き・乾しいたけの合計) | 821百万円<br>(野菜・果実・花き・乾しいたけの合計) |
| 2. 加工・業務用野菜の拡大<br>(1) マーケットイン戦略に基づく実需の掘り起し<br>(2) 生産拡大に栽培技術確立と販売拡大  | 7,100 <sup>+</sup><br>700百万円  | 6,200 <sup>+</sup><br>670百万円  |
| 3. 青果・花きの反収向上に向けた営農指導員の指導力強化<br>(1) 園芸産地改革ネットワークによる各品目部会による生産技術課題の解決<br>(2) JAの枠を超えた栽培技術・販売状況の情報交換と共有<br>(3) 県農林水産部および農業改良普及センターとのタイアップ | 研修会・検討会<br>35回以上              | 研修会・検討会<br>42回                |
| 4. 園芸大型経営体の育成<br>(1) 担い手への規模拡大提案およびフォロー実施   | 提案件数100件                      | 提案件数97件                       |

### 最重点推進品目対策について

今年度の園芸品目作付推進は、より効果的な作付拡大をすすめるため、JAの推進における「最重点対策」をバックアップすることを基本とし、「目に見える形」での推進を行ってまいりました。

具体的には、JA別に最重点推進品目および目標拡大面積を設定し、また、「園芸産地確立事業 総合生産対策事業」へのメニューの追加により、生産意欲が向上する支援を行っています。

### 1. JA別最重点品目の設定

各JAと協議をすすめる、JAの推進方針および地域実態に合った推進品目のうち、原則として一品目を「JA最重点品目」に設定しました。



JAグループ県知事トップセールス（平成29年）

## 目揃え会および検査体制の充実による品質競争力の強化

- (5) 物流体制の改善
  - ア. 出荷計画の精度向上と「標準パレット積載量」の順守によるトラック積載率の向上
  - イ. 出荷先市場の集約検討やJA集荷場予冷庫活用での在庫調整出荷による、トラック産地出発時間の前進化と輸送時間の短縮化
  - ウ. 輸送の効率化による輸送コスト上昇の抑制



冬恋試食会（平成29年）

## 3. 生産コスト削減対策

- (1) 生産性の改善、反収向上による収益向上策の推進
- (2) 「園芸産地改革ネットワーク」における反収向上対策をテーマにした活動の強化

## 4. 事業推進体制

- (1) 生産基盤拡大、反収向上、品質競争力強化などを目的とし、JA営農指導員をメンバーとした「園芸産地改革ネットワーク」の活動の強化
- (2) 野菜・菌床しいたけ・乾椎茸・花きなどの生産者を含めた協議会活動をつうじての生産者の生産拡大、販売の系統結集推進
- (3) 岩手県版GAPの全野菜出荷者による取り組み強化、記帳、残留農薬検査による安全安心志向に対応した「純情」ブランドの確立

イ. JAごとの目標面積を設定し、支援を受ける場合の必要面積とする。

ウ. 栽培に係る助成条件（対象生産者・面積・資材等導入）を設定する。

エ. 作付拡大した面積に対して助成する。

## 3. 推進結果



JAグループ県知事トップセールス（平成29年）

| JA     | 最重点品目 | 拡大面積 | 助成条件         |
|--------|-------|------|--------------|
| 新しいわて  | ピーマン  | 100a | かん水設備導入      |
|        | りんどう  | 240a |              |
| いわて中央  | たまねぎ  | 210a | 機械化体系導入      |
| いわて花巻  | ピーマン  | 104a | トンネル+かん水装置導入 |
| 岩手ふるさと | ピーマン  | 53a  | ハウス導入        |
| 江刺     | ねぎ    | 150a | 機械化体系導入      |
| おおふなと  | ピーマン  | 10a  | トンネル+かん水装置導入 |
| いわて平泉  | ピーマン  | 67a  | トンネル+かん水装置導入 |
| 計      |       | 934a |              |

平成30年度は、「純情産地いわて」が誕生して30周年になります。

園芸部では、その間、ブランド確立に向けて様々な生産・販売対策に取り組んでまいりました。

今年度は、これらの生産基盤拡大対策や販売強化対策を確実に実行することで、「純情産地いわて」の更なる産地確立に取り組んでいきます。



フラワーコンテスト展示（平成29年）



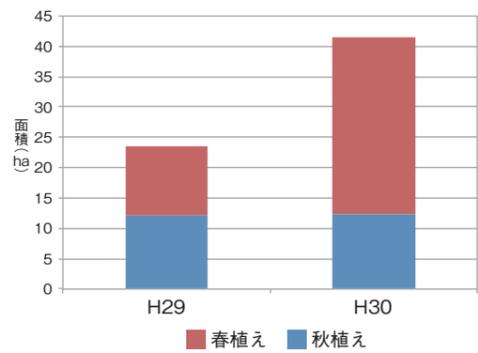
# 伸びる春まきたまねぎ 収量アップのポイントは



園芸部 生産販売課  
技術主管  
菊池 利行

県内では2月上旬に種をまく「春まきたまねぎ」への関心が高まっており、特に加工向けの栽培面積が増加しています(図1)。技術的にも改善が見られ、収量も増加傾向にあります。ここでは多収のためのポイントを確認したいと思います。

■図1 岩手県のみねぎ栽培面積



## ◇ほ場選び

日当たりがよく、排水性に優れた地力のあるほ場を選びます。転作田では砕土不良のほか排水不良による湿害が目立つことからほ場選びは重要です。

## ◇適品種

「もみじ3号」など秋まき用の中晩生種が春まきに適しています。早生系品種は株が小さいうちに日長に反応して肥大が始まるので小玉となり、この栽培には適しません。

## ◇適期作業

たまねぎは定植や収穫など適期の幅が狭いので注意が必要です。定植は4月下旬までに終わることが重要で5月の定植では小玉傾向となり多収は望みません。収穫は半分以上の株が倒伏してから1〜2週間後が適期となっており、遅れるほど肥大が進みますが腐敗球も増加します。機械化一貫体系が可能なことから大規模な栽培が増加していますが、降雨などに留意した余裕を持った作付計画が重要です。

## ◇病害虫防除

収穫期が7月中旬以降の高湿期となること、梅雨を経過することから病害虫の発生が多くなります。6月以降は10日に1回程度の防除が必要となります。



湿害による欠株、砕土も不十分

## ◇展示ほの結果

全農は春まきたまねぎの栽培安定のため、八幡平市でこれらの技術をもちにした実証展示を行いました。その結果平成29年には平均球重340g、10㎡当り75tの高収量をあげることができました。ゆとりのある計画を立てて基本を守ることが多収につながっています。



べと病による被害 予防散布が重要



収穫直前のたまねぎ きれいに倒伏している

# いわて純情むすめが 決定しました!

一人ひとりに認定証が授与されました。



2018



ほしなな  
星 菜々

- ①ミラーレス一眼カメラ・旅行・水泳
- ②「ありがとう」  
たった一言で、人の心を暖かくさせてくれます。自分も言われた方も良い気持ちになります。どんな時でも感謝の心を持つことが大切だと思います。
- ③地域の方々とのコミュニケーションをとりながら、岩手県産農畜産物と岩手県の魅力をPRいたします。いわての元気といわての心がたっぷり詰まった「純情ブランド」を全国の食卓にお届けいたします。生産者と消費者を繋ぐ架け橋として1年間笑顔で元気に頑張ります。



さとう まりあ  
佐藤 満里愛

- ①食べる事、体を動かす事  
誰とでも仲良くなれる事
- ②笑顔  
小さい頃から笑顔でいなさいと母に言われてきました。笑顔でいる事で心も表情も豊かになり、自分自身も周りも幸せな気持ちになります。笑顔は私の武器です!どんな困難にもとびきりの笑顔で挑みたいと思います!
- ③私は高校から6年間県外に出て、改めて岩手の空気・食べ物・美味しさや人の温かさを身に染みて感じました。そして実家から送られてくるお米やりんごは周りのみんなに喜ばれました。私は岩手で生まれ育った事を誇りに思っています。豊かで魅力溢れる岩手を発信していきたいです!



たかはし りさ  
高橋 梨紗

- ①旅行、一輪車
- ②一日一膳(善)  
一日一善を常に心掛けていることで、周りの人を笑顔にできると思っていたからです!膳はご飯が好きなので、その字にしてみました。
- ③私は、県外のお客様が、観光や仕事で岩手を訪れた際、料理の説明をする内に、岩手で採れる食材を知らない人がいると気がきました。普段から当たり前のように口にしていた美味しい食材をもっと知って貰う為に、尽力したいと思っています。

今年、生産者と消費者に、より身近に感じていただける様々な活動を通じて、幅広い世代へ「純情産地いわて」をPRします。

- ①趣味・特技 ②好きな言葉 ③純情むすめになつての意気込み



さとう らむ  
佐藤 良夢

- ①テニス、お昼寝
- ②ありがとうと感謝の気持ち  
亡くなった大好きな祖母が残してくれた言葉だからです。
- ③わたしは純情むすめとして、農家の方々の想いをのせたPRをしていきたいです。小さい頃から祖父の米作りに携わって、農家の方々の大変さを見てきて実感しました。こんなに一生懸命に育てて出荷している農家の方々がピックアップされる機会は多くはなく、悲しい気持ちになりました。このことからわたしは品種のPRも大切ですが、農家の方々の想いを多くの方々に伝えられるようなPRをしたいと感じました。少しでも多くの方々に伝えることができるよう、笑顔と元気で一杯頑張ります!岩手県の名に恥じぬよう全力で努めます。



ふじた うらら  
藤田 麗

- ①銭湯巡り、舞台鑑賞特技:ピアノ
- ②謙虚  
自分のことを過信することなく素直な人になりたい、と考えているからです。
- ③岩手で暮らし始めて一年。生産者さんの優しさに触れる機会が多くありました。それが、純情むすめになりたい!という私の思いを強くしました。岩手の農畜産物の美味しさとともに、生産者さんの温かい思いも伝えていきたいです。一年間、どうぞよろしくお願い致します。



ひがしやま かな  
東山 佳永

- ①演劇・口笛
- ②ありがとう  
「ありがとう」という言葉が好きな理由は、相手の方の言葉・行動・感情に真直ぐに感謝の気持ちを伝えられるからです。
- ③この度はいわて純情むすめという大役をいただき本当にありがとうございます。県外の方に岩手の美味しいものや温かさを知っていただくのはもちろん、県内に住む方々にも故郷の良さをもっと知っていただけるような活動をしていきたいと思っています。一年間頑張ります!



すずき まりん  
鈴木 茉莉

- ①趣味:被写体撮影、カフェ巡り  
特技:歌、さんざ
- ②Live in the moment!  
今この瞬間を楽しんで生きていきたいからです。
- ③岩手県に育てられたいわてっ子、鈴木茉莉です!岩手のお米、岩手のりんご、岩手県の農畜産物がとっても大好きです!たくさん食べて、たくさん学んで、生産者の方々の思いや、私たちに美味しいものを届けてくれる感謝をいわて純情むすめの活動を通して伝えていきたいです!よろしくお祈りします!

## 生産者手取りの確保へ

6月6日(水)

### 平成30年度花き販売対策会議

JA全農いわては、6月6日(水)に、盛岡市内のホテルで、平成30年度花き販売対策会議を開催しました。各JAと生花会社や運輸会社14社が参加し、「生産基盤の維持・拡大とマーケットインによる生産振興」、「オールいわて」での販売強化」を平成30年度基本方針として掲げ、具体的な販売対策について協議しました。

本年度の花き全体の計画販売高は、前年比4億円増の34億円を計画しています。計画達成に向け、下記の施策を実践することで、県内の生産基盤を強化し、花き生産に取り組む生産者を支援することを関係者で確認しました。

- ・りんどう、小菊を中心とした反収向上対策の実施
- ・本会の買取販売強化による新規生産者、営農組織の経営リスク軽減(りんどう、小菊に加え、本年度より洋花、鉢花の買取販売を開始します。)
- ・安定価格を形成するための等階級表示の変更



## 団体優勝に輝きました!

6月7日(木)

### 「第51回全農乾椎茸品評会」

JA全農いわては、6月7日(木)に、埼玉県久喜市で開催された「第51回全農乾椎茸品評会」で、東日本大震災以降として、平成27年以来3年ぶりの団体優勝に輝きました。

過去の品評会では、本県は平成11年から平成22年まで12年連続でトップを飾ってきましたが、東日本大震災の福島原発事故に伴う放射性物質の影響により、国からの出荷制限指示や風評被害など、生産から流通、販売に至るまで多大な影響を受け、優勝から遠ざかっていました。しかし、このような厳しい状況の中、生産者と関係者が「オール岩手」で一丸となり、「岩手ブランド」の再構築に向けて取り組んだ結果、今回の優勝へつながりました。

6月14日(木)には、埼玉県久喜市で、「第51回全農乾椎茸品評会」の表彰式・展示会が開催されました。岩手県は、団体優勝、個人表彰(県内生産者は全国入賞箱数41本中9本入賞)を受けました。



「第51回全農乾椎茸品評会」表彰式の岩手県受賞者

## 激戦!小学生ソフトボール大会

6月9日(土)、10日(日)

### 第32回岩手県小学生男女ソフトボール大会 兼 第32回全日本小学生男女ソフトボール大会岩手県予選会

JA全農いわてが協賛する小学生ソフトボール大会が、6月9日(土)、10日(日)に、一関市千厩町で開催されました。県内の16チームが参加し、晴天の中、全力でプレーしました。

決勝戦は、大東ブルースターズ(一関市)と沢内ジュニアスポーツ少年団(西和賀町)が激闘の末、5対0で、大東ブルースターズが勝利を勝ち取りました。

本会からは、管理部の佐竹雅之部長が出席し、副賞として、県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」を使用したバックごはん、全国大会への支援金、「いわて純情そうめん」等を贈呈しました。また、参加賞として県産牛乳と切り餅を配布しました。

全国大会は、北海道で開催されます。これからもJA全農いわてはスポーツをする子どもたちを応援していきます。



決勝戦の様子



編集  
後記

日中は気温が上がるものの、夜にはひんやり涼しげな風が吹きます。気づけば、もう7月。「2018いわて純情むすめ」が決定しました。彼女たちは、来年度6月末までの1年間、県産農畜産物を全国にPRします。30代目の

「いわて純情むすめ」であるとともに、今年度は「純情産地いわて30周年」という節目の年。より多くの方に「純情産地いわて」が愛されるよう、活躍を期待します!

(佐藤)

## ユーコープ 茶美豚生産から販売までを体験

5月23日(水)

### 2018年 茶美豚 飼料用米田植え・産地視察研修会

JA全農いわては、生活協同組合ユーコープ・JAいわて花巻などと共に花巻市湯口の圃場にて、手植えや機械による田植え体験を行いました。参加者は、水田の泥に足を取られながらも時折笑顔を見せ、熱心に田植え作業をしました。

JA全農いわてがユーコープ産直提携事業の一環として取り組む、茶美豚飼料用米栽培は、水田の有効活用・国産飼料活用による自給率向上に貢献することを目的としています。茶美豚とは、鹿児島・岩手・茨城の農場で生産される、産地・品種・飼料指定された豚のことです。飼料用米の他に、茶(カテキン)を加えた「茶美豚専用飼料」を与えられていることも特徴的です。この交流事業を通し、ユーコープ組合員は、養豚農場視察・飼料用米田植え体験・豚肉加工視察など、茶美豚が商品になるまでの一連の流れを学ぶことができます。

岩手県産茶美豚は以下の3店舗で販売されています。丹精込めて作られた美味しい茶美豚を、ぜひご賞味ください。

- ・岩手県産茶美豚 販売店舗
- ① 農産物産直売所「母ちゃんハウスだあすこ」
- ② Aコープゆぐち店
- ③ Aコープとうわ店



集合写真(花巻市湯口)

## 「牛乳の日」消費拡大PR

6月1日(金)

### 平成30年度 牛乳の日 PR活動実施

JA全農いわてはJA・岩手県牛乳普及協会・岩手県と共に、「牛乳の日」である6月1日に岩手大学やJR東北本線の一ノ関駅、水沢駅、花巻駅にて、牛乳の消費拡大PR活動を行いました。岩手大学では、2017いわて純情むすめと職員18名が、県産牛乳1500本(200ml/本)とリーフレットを配布しました。岩手大学での活動は今年で3回目。若い世代に対し、県産牛乳のイメージアップと消費拡大を呼びかけました。

また、新しい取り組みとして本年度より「乳和食」のPR活動も実施しました。乳和食とは、調味料に「コク味」や「旨味」のある牛乳を組み合わせる調理法のことです。食材本来の風味や特徴を損なわずに、食塩やだしを減らして食べることができます。



県産牛乳等を配布(岩手大学での様子)

## 防災意識を再確認

6月6日(水)

### 平成30年度保安教育研修会(総合訓練)

岩手県JA-SSチェーン本部は、危険物安全週間である6月6日に株式会社Eーポート岩谷堂給油所で、平成30年度保安教育研修会(総合訓練)を実施しました。この研修会には、県内全店舗(44店舗)の代表者と本会関係者の計75名が参加しました。

江刺消防署の協力のもと、ガソリンスタンドで火災が発生したことを想定し、通報から避難、消火等のブライント訓練(シナリオのない実際の事故を想定した訓練)や講習会を実施しました。

岩手県JA-SSチェーン本部委員長の菊池晋委員長は、「危険物は身近にあり、いつ事故が起こるか分からない。どのような行動をすべきか、訓練を活かして日々の業務に取り組んでほしい」と防災意識の重要性を語りました。



訓練の様子

# みんなであ いわての 未来を 育もう。

純情産地いわてが目指してきたこと。  
 全国の食卓に安全安心な  
 いわての農畜産物をお届けすること。  
 いわての風土に向き合う生産者が  
 情熱をもって農畜産業に取り組めること。  
 その想いは、これからも変わることはありません。  
 皆が一つになった歩みが、  
 いわての未来を育てていくと信じているから。  
 私たちは、JA全農いわてです。

純情産地いわて

# 30th

みんなであいわての未来を育もう。



純情産地いわて感謝祭を実施します

【日時】平成30年8月11日(土・祝) 10:00~16:00(予定)  
 【会場】盛岡駅前「海の広場」

純情産地いわての農畜産物はこちらで購入できます ▶ JAタウン いわて純情産地

株券 <http://www.ja-town.com/shop/c/c2101/>

JA全農いわて

<https://www.junjo.jp/>  
 JA全農いわて 検索



私たち全農グループは、  
**生産者と消費者を  
 安心で結ぶ懸け橋**  
 になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課  
 JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145  
<http://www.junjo.jp>

